

令和6年度 第3回学校運営協議会

住 所 盛岡市羽場18-11-1
学 校 岩手県立盛岡工業高等学校
校 長 瀬戸和彦
電 話 019-638-3141

1 会議の名称

令和6年度第3回学校運営協議会

2 会議の日時

令和7年2月19日（水）11：05～12：00

3 会議の場所

盛岡工業高等学校 盛工百年館 第1研修室

4 出席者の氏名

森 達也	岩手県立産業技術短期大学校 校長
浅沼清一	エスペロの会 会長 [JA岩手中央代表理事組合長]
野田純孝	株式会社ミクニ盛岡事業所 所長
佐々木康隆	盛岡市立飯岡中学校 校長
中里哲夫	同窓会 体育後援会副会長
中村知泉	P T A 元P T A 3 学年委員長
瀬戸和彦	校長
吉田亨	副校長（全日制）
宮沢一裕	副校長（定時制）
千葉隆一	事務長
田鎖充	教務主任（全日制）
小野寺真由美	総務主任（全日制）

【欠席者】

池 浩之	岩手県工業技術センター 専門幹研究員
尾崎芳彦	副校長（全日制）

5 会議の次第（進行：吉田副校長）

- (1) 開会
- (2) 校長挨拶
- (3) 学校概要説明
- (4) 協議（進行：森 達也 協議会会長）
 - ア 学校評価アンケート結果についての意見交換
 - イ 学校の魅力化、特色化についての意見交換
- (5) その他
- (6) 閉会

6 会議の概要（協議内容）

（1）校長挨拶

私からは2点お話をしたい。1点目は昨年末に行われたラグビーの全国大会についてですが、本当に多くの方々から応援をいただくことができた。そして多大なる御支援と御協力をいただくことができた。ラグビー部は目標のベスト16には届かなかったが、十数年ぶりに2勝することができた。本当にありがとうございます。2点目は高校入試の出願状況についてですが、我々が予想していたよりも多くの中学生に出願していただいた。以前もお話ししたとおり、2年前は全学科で定員を割り過去最低の216名の入学者数であったが、昨年度から教職員と生徒が一丸となって本校の魅力化・特色化に取組み、今の1年生は前年度比32名多い248名の新入生であった。今年度は更に中学生が減少している中で、推薦入試の廃止や私立高校の人気の高まっていること、隣接する南昌みらい高校の開校など厳しい状況が予想されたが、ほぼ昨年度並みの出願があった。本日の学校運営協議会でも皆様からの御意見をいただきながら、本校の魅力化・特色化を更に推進していきたい。

（2）学校概要説明

- ア 資料の2ページ以降を吉田副校長が説明
- イ 資料18ページについて田鎖教務主任が説明（主に進学実績）
- ウ 小野寺総務主任から「全国高校ラグビーフットボール大会」出場に係る渉外活動を報告
- エ 資料14ページの「学校評価アンケート（定時制）」結果について宮沢副校長が説明

（3）協議（進行は森会長が務める）

- ア 学校評価アンケート結果についての意見交換

【委員】

今回の調査では、昨年度と比べて保護者の回収率が倍以上に上がったとのことだった。このような意識調査の場合は、単純に過年度と比較することは危ないと思う。家庭学習の質問項目については、保護者の熱心さが影響している可能性あり、回収率が上がったことから単純に悪くなったと捉えることには注意が必要だと思う。

【委員】

10ページの「この学校に入学して良かった」（生徒）と新入生者数の関連についてだが、今後続けていくと面白い結果が出てくると思う。逆に、良かったとっていない、思えない生徒の意見等に対してどのように対応しているのか。

【学校】

アンケート結果では90%以上が肯定的だが、それ以外の生徒にはそれぞれの理由があると考えている。自由記述欄には、「校則が厳しい」や「今時の校則にしてほしい」、「部活動の在り方」、「部活動が厳しい」など様々な回答があった。各分掌の主任や学年・学科主任が出席する校務運営委員会で自由記述の回答をすべて示したので、それぞれの担当で対応できるもの、検討できるものから今後対応していきたい。

【委員】

中学校側からすると学区内の高等学校であり、中学生にとっても馴染みがある。特に隣接する小学校の児童は盛岡工業高校に親しみを持っていると思う。エスペロの会でのマーチング部演奏も本校を会場に実施することができた。一方で、中学生の進路希望は地域の高校だけとは限らないので、地元の高校という意識を持ちつつも進路選択の際には間口を広げて見ている状況である。

【委員】

学校評価アンケートの保護者回収率が35.4%から81.4%に高まったことに驚いた。高校生ものづくりコンテスト全国大会が盛工で開催され、生徒たちも良い刺激になったのではないか。最終的には、生徒が「この学校に入ってよかった」と思ってもらえることが一番うれしいことだと思う。

【委員】

今回のアンケートは、MicrosoftのFormsを使ったようだが、昨年までの調査はどのような方法で行ったのか。

【学校】

昨年、一昨年もFormsを使って調査していた。

【委員】

以前は紙面での回答だったが、保護者もWebでの回答に慣れてきているのではないかと。一般企業でもWebアンケートが主流になっており、紙での調査より回答率は上がると思う。良い取り組みなので今後も継続し、中身も精査して欲しい。

様々な対外行事が増えており、学校外の人たちに認識してもらえることは普通高校と異なりとても良いことだと思う。ものづくり人材の育成にむけた取り組みを今後も継続してほしい。

【委員】

OBの立場として、評価が高いことは同窓生として誇りに思える。ただ、気を付けなければならないのは、逆の立場や考えの保護者、生徒もいるということである。どのように改善していくかは先生方のご努力だが、同窓会としても後押しできればと感じている。

【委員】

このようなアンケートをとると、ネガティブな回答がどうしてもある。それに対して学校側のリアクションを知ってもらうことでも評価が異なってくるので、対応の状況を情報発信することも大切だと思う。

【学校】

生徒指導主事が不在なので代わって説明するが、魅力化・特色化の一つとして生徒の主体的な活動を推進している。昨年度は校則検討委員会を立ち上げ、生徒自らで整容などの校則や課題を解決していこうと取り組んでいる。今回のアンケートで記述のあった内容については、今後も生徒が一生懸命に考えていく。集会などの整列指導に関しても、これまでは教員が指示していたが今では生徒たちの指示で整列しており、生徒が自ら動く学校に変わりつつある。今後も情報発信していきたい。

イ 学校の魅力化、特色化についての意見交換

【委員】

昨年度と比べて、中学校3年生の人数はどのくらい変化したのか。

【委員】

全体的に大きな変化はないが、少し減少している。

【学校】

先日、調整前志願者数の報道があった。市内にある複数の高校でも募集定員に満たない学校があり、本校も含めてどこの学校も苦しい状況にある。そのような状況で、志願者は昨年度とほぼ同数であった。

【委員】

沿線の進学校といわれる学校も定員に満たず、沿岸部の進学校では200名を確保できている学校がない。学科数が多いこともあるかもしれないが、盛工は236名から志願があったということは認知度が高いことの表れだと思う。

今日も授業参観で校舎内を拝見したが、古い設備や実習機器を使っており、今の子どもたちが魅力的に感じているかは疑問である。校舎も50年以上経ち、よく維持できているなどという感じがする。市内でも新しい校舎の学校があり、子どもたちは魅力を強く感じているのではないか。校舎移転の有無に関わらず実習機材などをそのまま使い続ける状況であれば、企業や世の中の求める技術に追いつけず差が開く一方である。このような教育環境で企業人の育成を叫ばれても先生方は非常に大変だろうし、その点が改善すれば、工業高校にますます興味関心を示してくれるのではないか。

【委員】

私も授業を拝見したが、やはり機材が古いと強く感じた。溶接の実習では二世世代ぐらい前の機械を使っている。予算が厳しいことは十分に承知しているが、機材を最新のものに更新できれば、生徒が就職したときに困らないで対応していけるのではないか。

【学校】

施設設備の更新は県に強く要望している。対策として、インターンシップやデュアルシステムを企業の協力で実施することにより、校外に出て最新の技術に触れる学びの機会を設けている。また、定時制でもインターンシップを1回から2回に増やすことで、最新の現場を体験させていただいている。

【学校】

電子情報科の生徒であれば、プログラムの言語であったり最新の機械を操作したりとデュアルシステムで学ぶことにより興味関心が広がり、校内での学習にも良い影響が出ている。今年度は2名の生徒がデュアルシステムに行ったが、人数が増えれば更に影響が大きくなると考えている。

インターンシップは全員で行い、積極的に取り組んでいる。非常に良い経験になっていると思う。

【委員】

インターンシップは生徒の興味を引くことや、就職のミスマッチを防ぐ意味合いがとても大きい。離職率の低下に大きな効果があるので、校外の企業で数多くの仕事を体験してもらうことで生徒と企業の双方にメリットがある。

【委員】

以前もお話ししたと思うが、インターンシップを受け入れる企業としては期間が短いと感じている。プログラムを考えて対応しているつもりだが、なかなか生徒の本音を聞くことが出来ていないと思う。学校に戻ってからでもいいので、企業への要望をいただけると次の受け入れに反映させることが出来るので、是非お願いしたい。

【学校】

工業部会では、北上川流域ものづくりNWと協力してアルバイト型のインターンシップというものを始めようとして取り組んでいる。長期休業期間に1・2年生が自分の希望する企業でアルバイトし、対価を得ながら就業体験することを県内工業系の高校で実施し始めている。企業と工業高校の連携推進にむけて、今後も協力をお願いしたい。

【委員】

様々な取組を始めることは非常に良いことだと思うが、先生方の立場からすれば、今まで以上にいろいろなことをやらなければならない。先生方への負担は大きくなる一方だが、今まで継続してきたことと新たに始めることの精査について学校としてどのように考えているのか。

【学校】

前任校では、授業等で探究的な活動を始めるにあたって自治体の予算でコーディネーターを配置してもらっていた。県ではなく市町村の予算で人材を確保することで新たな取り組みを始めていた。今は人材配置に向けて各方面にお願いしているところである。

校内では家庭学習の課題や宿題、年に4回ある定期考査の廃止に向けて検討を進めている。探究的な授業・学習を更に推進し、普段の授業を大切にしながら評価することで、生徒への課題や考査問題の作成、採点、評価にかかる時間を減らして先生方の負担を軽減できると考えている。

【学校】

先ほど説明した進路状況（主に進学実績）にも関係することだが、知識や技能・技術に偏らない思考力・判断力・表現力や主体的に学習に取り組む態度を育成するために、来年度から定期考査の実施方法を変更することとしている。工業科目に関しては中間考査を実施しない。具体的には普通教科は従来通りだが、クラスごとの工業科目は考査を行わず、日々の授業で評価することにした。また、外部の学習支援アプリを新入生から導入することで、生徒が苦手なところを主体的にICT活用しながら学んでいくことを来年度から取り入れることにしている。今年度からは採点ソフトをすでに導入しており、主に普通教科の先生方が活用している。

【学校】

定時制では校長の指示により中間考査を廃止し、今年度から定期考査を前期末と後期末の年2回としている。授業への取り組み状況を日常の授業で評価することとしたが、支障は全くなかった。

【学校】

長期休業前後の全校集会は、MicrosoftのTeamsを使って各教室に配信している。学年集会等は集合で実施したこともあったが、生徒や職員の負担減少になったと考えている。また、定例職員会議は事前に校務運営委員会を開催することで時間短縮を図っており、毎日の朝会も原則として週の初めと終わりのみに行っている。

【委員】

先ほど進学率が上がったとの説明があったが、この傾向はいつ頃から始まったのか。

【学校】

過去10年程は大きな変化はない。全体の3割が進学でそのうちの10%が4年制大学であるが、今年度は4年制大学への進学者が微増した。

【委員】

就職の場合、管内・県内・県外を希望する割合はどのように変化しているか。

【学校】

これまでと大きな変化はない。コロナ以降は管内・県内志向が高かったが、最近では県外希望者が増えてきている。

【委員】

就職先を選ぶ際の基準として、初任給の額は大きなウエイトを占めるものなのか。

【学校】

過去に担任をしていた時は、生徒が一番に重要視していたのは初任給であった。その次が福利厚生の内容だったが、最終的には保護者と相談し、休日や就業場所など様々な面を考えて就職先を決めていた。

【学校】

現在では、スマートフォンで求人票を閲覧できるので、いろいろな条件を指定して検索ができるようになっている。給与や賞与、休日、勤務地など生徒が重視する条件で企業を調べている。

【委員】

昨年10月に盛工祭を拝見し、久しぶりに高校の文化祭を体感することができた。中学校とは異なり、生徒主体の部分が多くあり活気があった。各科の展示を見て回った際、生徒の作品に出身中学校名が書いてありとても見やすかった。中学生が見ても判りやすいし、志望動機につながるかもしれないので、引き続き記載していただくと有難い。

ラグビーやウェイトリフティング、野球、スケートなど引き続きスポーツの面でも活躍する生徒が増えれば、盛工で部活動をやってみたいと考える中学生が増えると思う。本校にはラグビー部や野球部はないが、盛工で競技を始めたいと思う生徒が出てくると思うので、引き続きお願いしたい。

(5) その他
なし

(6) 閉会